

だいじょうぶだよ おじいさん

—相手の立場に立って考える—

- 1 学年 第4学年〔前期〕
 2 主題名 思いやりの心〔2－（2）〕
 3 ねらい

スイミングスクールに遅れても、熱中症になったおじいさんを助けた「たくや」の行動や気持ちを考えるを通して、思いやりの心の大切さに気づき、相手の立場を考えて親切にしようとする態度を身に付ける。

- 4 資料名 「だいじょうぶだよ おじいさん」
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1 今夏、熱中症で病院に救急搬送された人数などの新聞記事を提示し、記事に関しての感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの人が熱中症になって、倒れたり、なくなったりしてとても怖いと思った。 ・ 熱中症にならないように、お茶を飲むように気を付けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞記事の拡大コピーなどを準備しておく。 ○ 熱中症の怖さについて理解させる。
展開	2 資料「だいじょうぶだよ おじいさん」を読んで話し合う。 ○ スイミングスクールに向かっている「たくや」は、どんなことを考えていたでしょう。 ◎ 苦しそうなおじいさんのそばでおろおろする「たくや」は、どんなことを考えていたでしょう。 ○ おじいさんを運んでいる救急車のサイレンを聞きながら走る「たくや」は、どんな気持ちだったでしょう。 3 自分の経験を振り返る。 ○ 相手のことを考え、親切にしたことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早く行かないと遅れてしまう。 ・ 大会のためにしっかり練習するぞ。 ・ 大会では絶対1位になるぞ。 ・ だれもいないし、どうしよう。助けあげないと……。 ・ 助けてあげたいけど、大切なスイミングスクールに遅れてしまう。 ・ おじいさん、ほほ笑んでくれていたな。 ・ おじいさんも救急隊員の方も喜んでくれた。 ・ 役に立ててよかったな。 ・ けがをして、泣いていた1年生を保健室に連れて行ってあげた。 ・ バスで、お年寄りに席を譲った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スイミングスクール通いをしている「たくや」の気持ちをおさえる。 ○ 揺れ動く「たくや」の気持ちに共感させるとともに、切り返しの発問等により深く考えさせる。 ○ ワークシートを用意し、気持ちを書くことにより相手の立場に立って行動したときの気持ちについて考えさせる。 ○ 自分の経験を振り返らせることで、価値に対する自覚を深めさせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからも相手の立場になって進んで親切な行動をとろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親切にされて助かった実話を紹介する。

6 授業の概要

(1) 主題について

困った友達などを見ると、ほとんどの児童は何とかしてあげたいという気持ちになる。しかし、自分の利害が関わったりすると、素直に行動に移せない児童もいる。

主人公の「たくや」は、大切にしているスイミングスクールの時間が気になりながらも、おじいさんの苦しい表情を見て、自分が助けなければおじいさんは大変なことになってしまうことに気付き、助けを呼ぶという行動を起こした。このときの「たくや」の心情を考えさせる活動を通して、相手の立場を理解することが本当の親切につながっていくことに気付かせたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 実施の時期

熱中症を話題にしていることから、特に時期は問わないが、夏季（7～9月）に扱うのもよい。

イ 中心場面

主人公の「たくや」が、倒れたおじいさんのそばで、助けなければいけないと思う気持ち、逃げ出したい気持ち、スイミングスクールに行きたい気持ち等、心の中で葛藤している状況について、じっくり考えさせたい。そのため、児童の発言に対し、どうしてそう思うのか等の切り返し発問を行うことにより、児童の気持ちを揺さぶりたい。そして、「たくや」の行動の奥に潜んでいる気持ちについて、考えさせることを通してねらいとする価値にせまらせたい。

また、おじいさんが救急車で運ばれる場面では、おじいさんが苦しい中でもほほ笑んだことから、「たくや」の行動が本当におじいさんの立場に立った行動であったことに気付かせたい。

ウ 価値項目に関わって

2-(2)は「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」という価値項目である。本資料においても、倒れているおじいさんの思いや状況を想像しながら、「たくや」が行動を起こすよう場面設定をした。主人公の立場に立って考えることのできる学習過程を仕組みたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

導入においては、熱中症を取り扱った新聞記事を活用したい。熱中症は身近な話題として取り上げられており、新聞やテレビのニュースでも話題になっている。また、水分を多く取ること等、子どもたちの生活との関わりも深い。最悪の場合には死にいたる病気であることも記事に出ており、資料中のおじいさんの状況を考える上で大切な役割を占めている。

イ 展開の工夫

親切にしたりされたりした経験について、事前にアンケートを行い、実態把握を行うとともに、展開後段での経験の振り返りの際に活用したい。

ウ 終末の工夫

終末は、人の心のあたたかさが感じられるものや、困っている人の立場に立った行動であるものを説話の内容として取り上げることにより、児童自らが親切な行動を進んで行おうとする意欲がもてるようにしたい。

(荘山田小学校 沖元秀寿)